

「それと、ガラス片が結構落ちてい  
るので気をつけてください。」始まり  
のミーティングでプレリーダーの  
「にゅう」さんがみんなに伝える。

ここは、酒匂中学校の近くにある「酒  
匂浜公園」。共同住宅の棟に囲まれた、  
近所によくあるようなブランコやすべ  
り台などごくふつうの遊具が置かれた  
公園だ。

まだ夏の陽射しそのままの9月の土  
曜日、そんないたってふつうのこの公  
園で「プレイパーク」が開催された。  
10時からの開催と聞いていたが、その  
時間をすぎても人はチラホラしかいな  
い。主催の「pp@seisho」(プ  
レイパークをつくる会@西湘)の方々  
もまだのんびりと道具などを運んで  
準備をしている。「いつもこんな感じ  
です。特にプログラムもありませんか  
ら、自由に来て、好きなことをやって、  
自由に帰る。」と明るく笑う。

なるほど、見てみるとやってきた何  
人かの子どもたちは、準備を手伝うわ  
けでもなく、すでに自分の好きなもの  
を選んで遊び始めている。準備と遊び  
の境目がないのだ。そういえば、むか  
し自分が子どもだった時の気持ちを思  
い出すと、まさにそうではなかったか。  
子どもの遊びにプログラムはない。  
またプログラムがないことで、この会  
は大人にも子どもの頃遊んでいた時の

## 「思い切り遊ぶ、

### ときには何もしない、

### すごし方は自由です。」

「出入り自由、大人も子ども誰でも遊べます。」

そこは近所の公園に現れた、白昼夢のような冒険広場。  
冒険の醍醐味は、「自由と危険」。

どこからともなく集まった子ども達と大人達は力を合わせ…。  
新しい地域のコミュニケーションに「冒険」はいかが？



徐々に人が集まり出し、いつの間にか盛況に。チラシを見てバスに乗ってやってきた人から、たまたま公園に遊びにきたらやっていたという近所の人など様々。



「pp@seisho」の理念。



ような自由でリラックスした気持ちに  
させてくれる。

プレイパークには、プレリーダー  
という人がいる。これは子どもたちが  
自由に遊ぶための水先案内人兼、火を  
使う場所を決めるなどの「子どもたち  
が自由に遊べるようにするための」最  
低限の危機回避のコントロールをして  
いる人である。この「子どもたちが自  
由に遊べるようにするための」という  
ところにプレイパークの理念がある。  
公園には木の板に書かれたプレイパー  
クの理念が立てかけられていて、それ  
はこんな言葉から始まる。

「ここは子どもが主役の遊び場です。  
『やりたい』『やって見たい』にチャレ  
ンジできる場所です。冒険には小さい  
ケガ、失敗はつきもの。小さいケガを  
経験し、大きなケケンから身を守るこ  
とを覚え、失敗をくりかえし、どうし  
たらできるかなと工夫を重ねます。」

なるほど。本来、子ども達にとって  
は危険なことも含めてすべて学ぶ対象  
なのだ。しかも、本職である遊びを通し  
て自然に学び、身につけていくというこ  
とだろう。さらに、この理念はこう続く。

「失敗のチャンスをうばわずちよつと  
待ってみて『できた！』の瞬間のどび  
きりの顔、地域の方たちの子どもを見  
守るあたたかい目が私達の活動を支え  
ています。たき火や泥んこ、木のぼり  
水遊び。思い切り遊ぶ、ときには何もし

酒匂・小八幡  
酒匂浜公園  
プレイパークの風景

